

第10回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

1 開催日時 平成26年3月18日(火) 午後3時30分～午後5時30分

2 開催場所 ツインメッセ静岡中央棟4階 404・405 会議室

3 出席者 【委員】

上田委員、小笠原委員、久留島委員、佐藤委員、高倉委員、竹内委員、
鳥羽委員、二渡委員、本多委員、牧野委員、望月委員

【事務局】

森参事、吉川統括、河合統括、頭師副主幹、佐藤副主幹

4 傍聴者 一般傍聴者 なし 新聞記者 なし

5 開 会 森地域産業課参事

それでは、定刻となりましたので、第10回静岡市ものづくり産業振興審議会を開催いたします。皆様には、お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。さて、本日は皆様に、ものづくり基本計画の策定案を検討いただくための勉強会の一環としまして、市内において、ものづくり産業の振興に関連する活動を展開されています民間団体の代表者様2名をお招きし、その活動内容などをお話しいただくとともに、策定案の検討に向けた審議会委員との意見交換などを行っていただきたいと思います。それから、本日は中村委員から所用のため、欠席するとのことご連絡を頂いておりますが、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則第6条第2項及び同条第4項の規定により、審議会が成立していることをご報告いたします。また、静岡市では附属機関等の設置及び運営に関する規則に基づきまして、原則、附属機関の会議は公開となっております。今回の会議について、非公開となる情報は含まれておりませんので、公開としたいと思っておりますが、皆様、よろしいでしょうか。

【各委員】 了承

(事務局：森地域産業課参事)

ありがとうございます。それでは、公開とさせていただきます。只今のところ、傍聴人の希望はありませんので、傍聴人の希望がありましたら、随時入室いただくようにしたいと思います。また、審議の経過等によりまして、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度その旨を決定いただくこととなりますので、よろしく願いいたします。会議録につきましても、公開となりますので事務局で会議録を作成し、会長と他委員1名のご署名をいただきまして、公開の手続きをとりたいと考えております。会長以外の署名につきまして、本日は牧野委員にお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

【牧野委員】 承知しました。

(事務局：森地域産業課参事)

ありがとうございます。それでは、次第の会長挨拶以降についての議事進行については、二渡会長にお願いしたいと思います。二渡会長、よろしくお願いたします。

6 会長挨拶

【二渡会長】

皆様、お久しぶりでございます。お忙しい中、審議会にご出席いただきましてありがとうございます。本日は、ものづくり産業の振興に関する民間団体の代表として、日立清水理科クラブの山内理事長とNPO法人マンパワーカフェの上妻理事長にご出席いただきました。本当に、お忙しい中ありがとうございます。事務局からお話がありましたように、今日は、最終案の策定に先立つ勉強会ということで、市内で実際に、製造業の現場で陣頭指揮をしておられますお二人をお迎えしたわけでありまして。実は山内さんと上妻さんは、個人的に私の最も親しい友人のお二人になります。私は日頃から、その人柄と識見、経験に敬意を表しており、お二人は立派な静岡を代表する産業人でありまして。後ほど、事務局から詳しいご経歴の紹介があるかと思いますが、山内さんは昭和35年に日立製作所に入社され、清水工場に配属となり、主に製造部門を担当して工場長を務められた後、グループ企業の社長を長年務められました。そして、上妻さんであります。昭和40年、三菱電機に入社され、静岡製作所などで設計を主に担当し、皆様よくご存じのルームエアコン霧ヶ峰シリーズの開発設計に携われました。製作所長を務められた後、グループ企業の社長を務められております。お二人とも大変人柄の良い方でありまして、優しいだけでなく、厳しいところは相応に厳しく、暖かいところは猛烈に暖かいという人柄の方であります。ですから、時には厳しいことを直言されますけど、後々、皆から感謝される、こういう徳をお持ちのお二人でございます。おそらく静岡の産業界にとって、経験、力量、識見、あらゆる面をとって、このお二人は最高の産業人であると、私は常日頃から尊敬しております。

静岡市の発案で商工会議所が受託事業で進めております、製造現場改善支援事業というものがあり、中小企業の困った問題を現場に行き解決していくという活動を行っております。その事業で、先頭に立って活躍しておられるお二人と、委員である中村さん、そして新しく小糸製作所副社長の榎原さんが入ってこられて、私を含め5人の委員で、4年間で40件程の事業所について、課題を解決してきました。お二人は、経験豊かな抜群の判断力で仕事を進めておられます。今日は、お二人それぞれが取り組まれておられるグループの活動発表ということで、静岡市のものづくり現場でこういう動きがある、ということをご紹介いただきます。是非、それをお聞きいただき、更にいろいろと討議をしていただくとともに、後ほどお二人から、審議会に対する提言もあろうかと思っておりますので、その辺りも含めまして、十分意見交換をし、勉強を深めていただきたいと思いますと思っております。

まず、お二人の話を伺った後で、討論をし、その後、部会関連の報告をいただきまして、今日の勉強会の終了というスケジュールで進めたいと思っております。それでは、よろしくお願いたします。

7 意見交流者等のご紹介

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

それでは、意見交流会ということで始めたいと思っておりますが、本日の参加者についてご紹介

します。まず、会長の方からご紹介がございました、日立清水理科クラブの山内理事長様です。山内様は日立製作所の清水工場で工場長をお務めになり、製造部門のスペシャリストとしてご活躍された後、日立関連の会社の経営にも携われたということもお伺いしております。現場と経営の両方に携われた方でございます

続いて、NPO法人マンパワーカフェ理事長の上妻様でございます。三菱電機の静岡製作所の所長を務められた上妻様は、ルームエアコン霧ヶ峰シリーズの開発設計者であり、元々はエンジニアのエキスパートでございます。また、経営の方にも携われておりまして、山内様と同様に、現場と経営の両面を経験された方です。

続きまして、審議会の委員をお名前だけでも座っている順番にご紹介したいと思います。駿河塗下駄の佐藤委員、鳥羽漆芸の鳥羽委員、静岡産業大学の牧野委員、同じく静岡産業大学2年生の小笠原委員、そして上田委員です。続いて、静岡大学の高倉委員、静岡商工会議所女性会副会長の竹内委員、さらに、東京芸術大学名誉教授の望月委員、静岡理工科大学の久留島委員です。向かって正面は、二渡会長と静岡特産工業協会長の本多委員になります。よろしく願いいたします。それでは、早速ではありますが、山内様の方からご説明をいただければと思います。よろしく願いいたします。

8 意見交流者のご意見等

【日立清水理科クラブ：山内健敏理事長】

只今、ご紹介いただきました日立清水理科クラブの山内でございます。よろしく願いします。今日は日立理科クラブの活動、それに至る経緯をお話しさせていただき、ビデオを持ってまいりましたので、最後にそれを見ながらお話をさせていただきたいと思っております。

お手元にあります日立清水理科クラブのパンフレットを中心に話をさせていただきたいと思っております。まず「ねらい」であります。私がこだわりましたのは、「ものづくりの静岡市」に関しまして、多くの方々で応援していこう、また、その応援団の中に私達も参画していこうというところにこだわりました。現在、理科離れが進み、理科を本当に好きで取り組んでいる子ども達が非常に少なく、その子ども達が将来、ものづくりを担っていくことに対して、大変な危機感を社会全体で持っていることと思っております。我々も、エンジニアの集まりとして、同じような問題意識というものを強く持っております。そんな中、私も歳を重ねていく中で、何か地元に貢献をしていきたいということを常々思っておりました。

今から3年ほど前のことになりましたが、皆様ご存知のとおり、東日本大震災がありまして、大変なことになりました。その時、我々の仲間、様々なテーマについて議論しました。若い方は、皆さんボランティアで東北地方に出掛け、がれきを処理するとともに、医療の分野では、全国各地から医師が駆け付け、診療のお手伝いに尽力されておりました。そういった活動を拝見しておりますと、例えば、私がそこに行くと仮定した場合、私の高齢では、皆さんの足手まといとなつてご迷惑をお掛けするのではないかと思われました。そのような理由から、被災地支援等の活動は無理があるだろうと感じていました。さらに、考えを巡らす内に、それならば、地元の静岡市でお役に立てることは何かないかと考えるようになりました。自分の専門は、企業で30年間、ものづくりをさせていただいたということでもありますので、そのノウハウ等を何らかの活動を通じて、地元に残したいという思いに駆られ、始めたものが、この日立清水理科クラブの発端であります。今から2年ほど前、立ち上げようと決心いたしました。ちょうど2年が経ちましたが、その間、人集めや器材の準備等から様々なこと

に取り組んできました。

次に、取り組み項目と活動の内容説明に入ります。具体的には、ものづくり教室、理科の授業に関する支援、地域で催される科学のフェスタ・イベントへの参加、この3つを中心に活動しております。

ものづくり教室とは、子どもたちを教室に集め、こちらで用意した教材に関する理論を学び、実際に「もの」を製作していくプロセスを楽しむことを大切にしています。この過程の時間は、約2時間となっています。また、月に1回ではありますが、定期的に第4土曜日に教室を開催しております。今まで6回開催しましたが、大変好評をいただいております。

続きまして、科学のフェスタ・イベントへの参加について説明します。日立清水理科クラブでは、色々な教材を所有していきまして、それを使って、先日、東海大学清水キャンパスで行われたドリームサイエンスや県立清水テクノカレッジに参加しています。その他としては、各小学校の様々なイベントにも参加し、大勢の方にもものをつくる楽しさを伝え、教えるという活動をしております。

もう一つは、理科の授業の支援であります。公立小学校へ出向き、4年生、或いは理科の実験が多い5年生の授業のお手伝いをしていますが、実験の準備や教えるための器材の作製、また、先生とともに実際に子ども達を作る過程を指導しております。現在は、このクラブのある清水区村松近辺の学校を中心に活動しています。

続いて、運営体制ですが、メンバーは日立OBによって構成されていますが、学校で活動している関係から、市教育委員会の後援をいただいております。日立という社名を掲げている関係で、日立の関連会社や賛助会員等の支援を受けることができるため、教室開催についての費用を非常に安価にすることが可能となっています。また、静岡駅前の「静岡科学館る・く・る」とコンタクトをとって指導をいただいております。さらに、「クリエイティブタウンま・あ・る」との連携や、茨城県にある同じ日立グループの理科クラブとも相互に協力して活動に取り組んでいます。

ご覧のパンフレットには、実際の活動写真等とともに、この理科クラブを立ち上げた我々の思い・願いを載せています。我々は、大きなことができるというわけではないので、「ハチドリの一としづく」の考えに重きを置きまして、私たちのできることをやっという活動しております。また、クラブの会報がありますが、これは実際の活動状況について、日頃お世話になっている公的機関、賛助会員、そして、実際に活動しているメンバーに向けて、活動情報の共有化を図るために発行しています。

毎月1回の発行で、現在は25号まで発行しています。さらに、県の文化・観光部文化学術局大学課が発行する「人づくりニュースレター」の3月号にも、当クラブの活動が掲載されました。こちらには、2月のものづくり教室の活動状況を載せていただきました。このように昨今では、当クラブの活動が県や市などからも認められつつあるのではないかと考えております。

科学教室に関しては、少ない定員ではあるものの、あかげさまで大勢の子ども達から参加希望がありまして、大変好評な状況にあります。現在、キャンセル待ちの状況が続いております。参加希望人数が多い場合は、午前と午後の2回に分けて開催しておりますが、その中で非常に熱心に参加していた小学校6年生の児童から、今日、メールが入っておりまして、少しそちらをご紹介したいと思います。

「理科クラブがすごく楽しかった。中学生になったら参加できないのが残念です。清水小

学校に来てくれて楽しかった。特に、ものづくり教室は理科好きの子どもが集まって学校ではやらないことを色々体験できるのが楽しいです。」とのことであります。こんなメールが入っていることもあり、私どもは大変嬉しく思っております。

以上が活動の概要になりますが、後ほど、ご質問がありましたらお願いしたいと思います。最後に、以前に当クラブの活動状況がテレビで放映されました。2分ほどのものでありますので、ご覧いただきたいと思っております。それでは、よろしくお願いたします。

□日立清水理科クラブ紹介DVD観賞

以上が、私の説明となります。今日のテーマであるものづくり産業振興基本計画の中にも、人をいかに育てるかという項目が入っております。我々としましては、その一部をお手伝いできればと思っております。ありがとうございました。

【二渡会長】

山内理事長、ありがとうございました。私も教室を拝見いたしました。実際に活動している子ども達の目つきが素晴らしく、目を爛々と輝かせて取り組んでいます。保護者の方が壁際から見ているのですが、自分の子どもがこんな真剣な顔をしているところを初めて見た、というくらい真剣に取り組んでいます。この活動を通じて、将来、理科好きの立派な青年が育ち、静岡市の地域産業に役立つ人材が育ってくれればと思っております。では、続きまして、上妻理事長、お願いいたします。

【NPO法人マンパワーカフェ：上妻親司理事長】

先ほど、ご紹介を受けました上妻と申します。私が現在所属しております、NPO法人マンパワーカフェの目的や活動をご紹介することによりまして、多少でも、この審議会の活動にお役立ていただければと思っております。私どものマンパワーカフェの活動は、産業支援型・地域支援型の二つから成り立っております。一つは、地元の企業の経営から製造現場の改善、その他全般をお手伝いする活動をしております。これが、産業支援型の背景となる取り組みであります。一方、地域支援型というものは、地域住民の皆さんに喜んでもらえるような活動に取り組むことで、地域に多少でも貢献できればという考え方のもと、地域支援型と表現しています。

マンパワーカフェの立ち上げは、三菱電機を退職したOB 8名により発足しました。企業を退職した方々には、色々な分野で活躍された方がおりますが、そういった様々なスキルやノウハウを地域社会のため、あるいは、企業のために役立てることはできないかという考えから、NPOを組織して活動することになりました。2006年3月、正式に登記をしまして活動を開始しました。人材＝マンパワーがカフェに集まり、和気あいあいと情報交換をしながら、社会貢献活動について、色々なことを話し合いながら進めていこうということから「マンパワーカフェ」という名称になりました。我々の活動には3つのキーワードがあり、1つは企業や地元住民の方々に役に立つことをしようということ、次に、活動する我々自身が楽しく面白く活動できなければならないということ、そして最後に、幾つになっても学ぶ姿勢を忘れずに取り組んでいこうということでもあります。この3つのキーワードを念頭に置いて活動を開始しました。現在の会員ですが、個人会員が91名、法人会員が56社の構成になっ

ております。個人会員は、発足当初、全て三菱電機のOBだったのですが、現在は三菱電機のOBだけでなく、他の企業を退職された方もおり、2割程が三菱電機以外の方で構成されています。法人会員についてですが、会員になっていただければ、支援をうける際の費用が非常に低減される点に加え、相互連携の重要性にも着目する中で、個人・法人に関わらず、お互いの繋がりを深めることを目的として会員制を設けました。したがって、法人会員は我々が支援している企業であるということになります。

具体的な企業支援の内容に入ります。最初に手掛けたテーマとしては、企業のエコアクション21の認証取得のための支援があります。エコアクション21とは、国際的な環境規格ISO14000の中から、必要最小限の部分を取り出したISO14000の日本版になります。ISO14000の認証取得に比べ書類作成は簡便で、認証取得費用と認証更新費用が非常に安く済むという特徴があり、グローバル化への対応を進める大企業では、国際規格のISO14000の認証を取得しますが、事業展開を国内に限定しているような中小企業にあっては、ISO14000の認証を取得する必要がないため、エコアクション21の認証を取得する企業が、規格策定の1996年以降、年々増加している状況にあります。

我々の団体には、環境問題に関して専門的な知識を持つメンバーがいますので、認証取得の条件について、我々自身も、実際にエコアクション21について勉強を重ねながら、認証取得に必要な経営改善指導等の支援を行っています。現在、エコアクション21の認定を受けている企業は、全国に7,729社ありまして、その内、静岡県の企業は938社となっています。これは全国1位でありまして、その中で我々が取得をお手伝いした企業は63社を数えます。特に、官公庁と取引のある企業は、このような環境規格が必要になるため、現在でも、このエコアクション21は継続的に取り組まれています。

続いて、企業支援の活動は環境問題に限定せず、企業のビジネス全般への支援になります。企業の現状を分析し、経営の根幹に係ることから、資材購入・発注等について、専門的な目線で問題点を指摘・指導するとともに、製造現場においては、生産性の向上を図るための指導等を中心に支援をしております。また、金属加工やプラスチック加工等の製造技術の指導や、機械設備だけでなく、部品や基盤等の詳細な部分への指導、コスト改善の助言、あるいは、生産システムの統合化等の指導を行っております。支援形態になりますが、個人での活動範囲には限界がありますので、時には2～3人のグループで支援活動を行っておりまして、現在、支援中の企業は30社ほどになります。

続いて、地域支援の活動の一つとして、パソコン教室を開催しています。我々のパソコン教室は一般のパソコン教室と異なり、費用が非常に安い点と、基本的にマンツーマン指導での対応に努めていることから、個人の進度に合わせて指導する点に特徴があります。生徒はシニア層が多く、ワード・エクセルや写真の加工・保存等、日常的に必要な点をベースに指導しており、教室は週2～3日、静岡市番町市民活動センターで開催しております。夏には一部、藁科都市山村交流センター「わらびこ」でも開催しています。

その他には、親子のものづくり体験教室を開催しています。様々な環境問題について、ものづくりを通じて親子で学んでいけるような教室になっており、学校が長期でお休みになる夏休みや冬休みに開催しております。これ以外では、静岡まつりへの出店や用宗海岸の清掃などを行っており、地域住民の方々に対して、色々とお役立ていただけるような支援をしています。以上、我々の活動概要をお話させていただきました。ありがとうございました。

【二渡会長】

山内理事長、上妻理事長、どうもありがとうございました。お二人が活動しておられるそれぞれの組織についてお話をいただきました。静岡市のものづくり産業にとって、日立グループと三菱グループは非常に貢献度が高い訳ではありますが、今日は、それぞれを代表するお二人においでいただきました。地元への貢献に向けて、熱い心と使命感を持って取り組んでおられる実態を、審議会委員の皆様にはご理解いただけたかと思います。これから皆様と意見交換を進めたいと思います。まず、山内さんと上妻さんに一つお尋ねします。この審議会は、静岡市のものづくり基本計画策定案の検討を進めている審議会ですが、日頃のお二人の幅広い活動を踏まえた上で、この審議会に対するご意見・ご提言などございましたら、この機会にお示しいただけますでしょうか。併せて、審議会のメンバーとの意見交換をさせていただきたいと思います。まず、山内さん、何かございましたらお願いいたします。

9 意見交換・質疑応答

【日立清水理科クラブ：山内健敏理事長】

事務局の方から静岡市ものづくり産業振興基本計画の資料を頂いて拝見させていただきましたが、大変立派な資料ができていますと感じ、こちらについての意見は特にはありません。私が現在気になっているのは、人口問題です。資料からわかるとおり、静岡市在住の大学生は、高校生よりはるかに多くなっています。ただ、年間の人口が年々減っているということは、大学生の年代ではみな静岡にいますが、そこからの魅力不足からなのか、県外へ転出していくということになります。その点が寂しい状況ではないかと感想を持ちました。以上です。

【二渡会長】

山内理事長、ありがとうございました。続いて、上妻理事長、お願いします。

【NPO法人マンパワーカフェ：上妻親司理事長】

私は、静岡の産業が発展するベースになるのはやはりものづくりだと思っています。私が大手の企業に在籍していた当時、協力会社・下請会社の中で、発展性を感じる企業もあれば感じられない企業もありましたが、親会社に頼まれたものだけを作ってそれだけで終わってしまう企業には発展性は感じられませんでした。したがって企業の発展のためには、下請けの企業にしても、頼まれたものを製造する以外に、それだけではない何かが必要だろうと感じます。伝統工芸とは少しニュアンスが異なるかと思いますが、ものづくりというものは、その企業のオリジナリティもなく、ただ親会社の流れに沿っているだけではいけないと思います。下請け企業が、同じ商品も作る点においても、独自性のある商品、コスト削減もその一つですが、企業の工夫が表れるような商品を作っていかなければ発展性もなく、いずれ沈滞してしまうことになりかねないと思います。その答えは非常に難しく、そう簡単にすぐにはできるわけではありません。ただ、そういった意識を持ってものづくりをしている兆しのある企業が実際に発展してきました。実際に私が携わった霧ヶ峰シリーズのエアコン開発時も、ユーザーの求めているものを探っていきながら合っていくものを作っていこうという考え方が重要だったのですが、ものづくりについて、今後は、本質的にユーザーが求めているものを探り、その商品化に近づいていくという取組み・姿勢を続けていく必要があります。そのためには何をやっていけば良いのかを真剣に考えていかなければならないと考えております。以

上です。

【二渡会長】

上妻さん、ありがとうございました。それではお二人から、お話とご意見を頂きましたが、全般を通じて委員の皆さんと意見交換をしていきたいと思えます。質問あるいはご提言に対するご意見でも結構でございます。どうぞ自由にご討議お願いいたします。

【高倉委員】

一つよろしいですか？静岡大学の高倉と申します。まず、山内様に質問です。日立清水理科クラブでは体験教室を行う等、色々ご活動されておられていまして、現在、清水区を中心に展開されているとお話でしたが、駿河区や葵区に活動の範囲を広げるような予定があるのかということと、また、こういった教育支援のような活動をされている、他のNPO法人等の団体と、連携活動を今後展開していくお考えはありますか？

続いてマンパワーカフェ上妻様に、質問です。個人会員は現在91名とのことですが、こちらは基本的にサービスを提供する側の会員なのか、サービスを受ける側の会員なのでしょうか？また法人会員は56社とのことですが、こちらはサービスを受ける側とお伺いしましたが、56社の法人会員はどのようにお集めになったのか、NPO法人なので営業で募ってきたのか、その点もお聞きしたいと思います、以上です。

【日立清水理科クラブ：山内理事長】

質問ありがとうございました。活動範囲の拡大についてですが、現在、我々は清水区村松を中心に5つの小学校で活動を展開しております。この活動を起ち上げたきっかけが、地元である清水区村松に貢献したいという思いからであったという点から清水区中心の活動になっております。

もう一つ、活動を起ち上げた際のお話に戻りますが、ご承知のとおり我々は、ものをつくることに関してはプロフェッショナルなのですが、ものを教えるということに関してはアマチュアです。相手が従業員や部下の場合とは異なり、小学生に継続的に教えていくためには楽しい活動にしなければなりません、楽しく教えるにはノウハウが必要であると感じておりました。そのため、活動を起ち上げる前に、そういったノウハウを学びに、「る・く・る」や大学で、プロである先生の授業を伺い、学ばせていただきました。その中で、先生方は生徒をみな同じ進度に合わせて授業を進めることに力を入れていらっしゃいましたが、我々の活動は、子供たち全員に理科を教え、伸ばしていこうというのではなく、理科が好きな子をどんどん伸ばして、ものをつくる仕事、あるいは科学者になっていくような子を育てていきたい、という考えで希望者をこちらへ募る形をとっています。そのような理由もあり活動範囲拡大は将来的には考えていますが、現在は特に考えておりません。また、コストの関係もあり、パンフレット等を配ることはできませんので、先程お話したニュースレターや、クチコミ、あるいはフェスタ等の参加をすることで現在は少しずつ広がっている状態です。

続いて他の団体との連携活動についてですが、我々の教室だけで教えられる人数にはやはり限界がありますので、今後、人数の増加に対応するためには、他の団体と相互協力ということも必要になっていくと考えております。県外・市外になりますが、我々の日立理科クラブというのは茨城でスタートしまして現在、日立グループで6団体あります。そちらの方で

も少しずつ広がりを見せています。

【NPO法人マンパワーカフェ：上妻理事長】

法人会員と個人会員の差ですが、基本的に個人会員は支援をする側となり、法人会員さんは実際に支援を受ける側になりますが、会員になっていただくことで我々の支援活動の費用を割引いております。

営業についてお話しさせていただきます。発足当初は、我々が在籍した三菱電機の下請け企業を対象に、少し支援させてもらえないかという形でスタートしました。それが好評を得まして、そこから協会会社との繋がりが始まり、そしてクチコミで広がりをみせていきました。さらに最近4年間ぐらいは、市の商工会議所が進める製造現場改善支援事業において、今まで繋がりのなかった企業からも依頼がくるようになったため、ここからもさらに広がりをみせている状態です。支援する側の能力、あるいは量的な制約もありますので、今後継続していくのが条件ではありますが、こちらから強く呼びかけ等はしていない現在のペースが良いのではと考えております。また、支援活動が終わった企業でも、続いて支援・指導が必要な点が見つかれば、こちらから軽く呼びかけはしています。以上です。

【二渡会長】

ありがとうございます。他にどなたかいらっしゃいますか。それでは牧野委員お願いします。

【牧野委員】

貴重な発表を頂きましてありがとうございます。静岡産業大学の牧野と申します。日立清水理科クラブ様が行っている人材育成への取り組み、またマンパワーカフェ様が行っているエコアクション21取得支援へのサポート、中小企業支援のサポートは、非常に有意義で、興味深く拝聴させていただきました。この二つの取り組みは、静岡市ものづくり産業振興のためにも非常に意義があることで是非、継続していただきたいという思いで聞かせていただきました。一方で私の専門は統計を作ることでありまして、以前、NPO法人や、ボランティア、あるいは寄附の統計調査や集計に携わったことがあります。その中で課題をお伺いしたのですが、多く聞かれたのが「事業を継続することが困難である」という点でした。お二人には静岡市で事業継続していただきたいと思いながら聞いていた反面、その調査が頭の中にあり、事業を継続していくためにはどのようなことが課題であるのかを教えてくださいと思います。

以前の調査の中では、人材の育成や後継者問題、また、活動場所の確保が困難な点が挙げられていました。さらに、ボランティアやNPO法人とはいえ、継続していくためには収益や収入を得ることが必要で、その収益・収入の確保が難しいということを知りました。日立清水理科クラブ様、マンパワーカフェ様、それぞれ事業を継続する為に、苦勞されていることや、工夫されていることがありましたら教えてくださいと思います。よろしく申し上げます。

【日立清水理科クラブ：山内理事長】

ありがとうございます。大変重要なところをご指摘いただきまして、私どもも非常に気に掛ける問題の一つです、上妻さんの活動はNPO法人ではありますが、私の活動はまだ登録されておられません。やはり発足当初は、NPOに登録すべきか議論になりまして、現在でもこの

話し合いは続いております。我々サイドにNPOへ登録することに対して、メリットが見出せていない為、結果的にまだ登録するか結論は出ておりません。ただし、発足当初から定款・組織・経理等はいつNPOに登録をしても問題ないよう法律家・経理をメンバーに加え準備はできています。こうしておくことで、団体が広がっていても、発足当初の思い・考えが変わってしまわないようにしています。活動を継続していくためには、メンバーそれぞれの思い・考えが重要で、それぞれの意見の食い違いが活動を継続できなくなってしまう問題の一つと考えております。したがって活動を継続していくためのポイントですが、発足当初・加入当初はみな同じ思い・考えで活動をしていくが、様々な企業・職種を退職されたメンバーで構成されている活動だと、いずれ活動方針で意見の食い違いも出るので、その点も十分頭に入れて活動を続けていくことが大事だと考えております。

人材育成の問題についてのお話に入ります。我々の活動は企業を退職後に加入するのですが、年齢的に長い間元気に活動というわけにはなりません。そして企業というのは勤務している間は面倒を見てくれますが、退職後は企業との関係が希薄になります。理科クラブに限らず、こういった活動がその退職された方々の受け皿の一つになってくれればと思いますし、退職した方々が年々加入してくれれば、活動を続けていくことができると考えております。我々の年代は男世界でありまして、エンジニアは全て男性でした。ところがこれからは企業を退職される女性の方も増えてくるかと思えます。やはり女性の方が子供の扱いが上手ですから、女性のメンバーも加わっていただければと思っております。

続いて活動場所の件ですが、体育館の空き部屋がありましてそこを使っております。街中でこの規模の場所を借りて20人ほどの教室を開くのはコスト的にも難しいので、電気代とガス代、電話代をお支払いするぐらいの費用でお借りできているので非常に助かっております。

収入・収益についてですが、まず私たちは100%ボランティアで活動しています。人件費は事務所の女性に1日2時間のパートをお願いしている分だけです。教室でかかる費用については、基本的に材料費として700円以下の参加者負担をお願いしています。場合によっては交通費を負担してもらうこともあります。賛助会員をいかにお願いして集められるかということがポイントになりますが、関係する企業の方にはかなり入っていただいております、個人の方でも参加希望していただける方をこれから集めたいと思っております。

【二渡会長】

ありがとうございました。それでは時間が迫ってまいりましたけれども、もう1人どなたか、ご質問ご意見等ありましたら、では鳥羽さんどうでしょうか？

【鳥羽委員】

お話を聞いていまして、社会に対しどのように貢献していこうか、地域や会社に支援していこう等、お二人に余裕のようなものを感じましたが、私の携わっている伝統産業、漆の仕事では、お二人に比べて自分たちの世界というのが自分の事で汲々としている感想を持ちました。

また、将来のことを考え、後継者を育てることについては、お二人の様なOBの方が社外で活動しているのは異なり、現在はそのシステムが崩れてしまっていますが、伝統産業ではかつて親方と呼ばれる人が、技術を教えるという指導・支援を社内で行っていたということだと改めて気づかされました。

上妻さんは初めに、伝統産業の場合は少し話が異なるかもしれないとお話されていました。その時はやはり一流企業と伝統産業は事情が違うと思いながらお話を伺っていましたが、ユーザーの求めているものを見極め、工夫とオリジナリティが重要だとお話された時、それは伝統産業についても変わらないのでは？と感じ、大きな一流企業と伝統産業は全く違うものだから、と安易に考えてしまうのは甘えというか間違いではないかと考えさせられました。

私は日頃、大手企業の品揃えや商品提示方法、キャンペーン等を伝統産業も学んだほうが良いのではないかと考えておりました。一流企業のやり方をそのまま伝統産業に持ち込むことは不可能ですが、サイズダウン・スケールダウンしてうまく取り込めたらと思います。現在、多くの伝統産業はこういった他の様々な企業のやり方を取り込む手段・方法で悩んでいるのではないかと感じます。

【二渡会長】

ありがとうございます。鳥羽さん、商工会議所の現場支援事業というのがありますが、お二人を中心に企業OBが応援に来ますから、これを一度聞いてみて下さい。鳥羽さんがおっしゃるとおり、本当に企業の規模は関係なく考え方は同じです。今日は皆さん、お二人の話を聞きになりましたが、企業OBの持っている熱い心を良くわかっていただけたと思います。現場で実際に指導している方々も、やはり何か自分の持っているもので社会に貢献したいと皆熱い心を持っているわけです。私はお二人とよく話しているのですが、静岡市の企業OBの方々というのは何十年もかけて育てられていますが、その方々が定年だからと遊んでいては静岡市にとって損失になります、これを地域の活性化にどう繋げるかというのが、静岡の活性化のキーポイントだと思います。今日お二人からお話があった活動は、正にそれを実行しています。山内さんは「ハチドリのひとつづく」とおっしゃいましたが、私はこの言葉は本当に良い言葉だと思います。それでは皆さん、資料にある「ハチドリのひとつづく」一度読んでみます。

森が燃えていました

森の生きものたちは われ先にと 逃げて いました

でもハチドリだけは いったりきたり

口ばしで水のしづくを一滴ずつ運んでは

火の上に落としていきます

動物たちがそれを見て

「そんなことをして いったい何になるんだ」

とって笑います

ハチドリはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」

正にこういうことだと思います。自分のできることを静岡の人が一人一人やれば静岡市は凄いことになると思います。こんなことをしてもいい、実行しないのでは何もできないと思います。今日のお二人の話というのは、表現の仕方は違いますが、「ハチドリのひとつづく」の共通の理念に基づいたお話であったと思います。まだまだ質問はたくさんあると思いますが・・・どうぞ。

【山内理事長】

終わりに申し訳ありません。人材の件なのですが、我々の活動に学生のボランティアがとても有効であることがわかりました。高校生や大学生に来ていただいて、お手伝いをしてもらうのですが、学生の目の色が変わります。先日、東海大学と静岡大学の学生に来ていただいたのですが、一生懸命お手伝いをしていただき、将来、非常に有望な人材だと思いました。なによりもこういった活動が良い勉強になるかと思えます。

【二渡会長】

ありがとうございました。続いてどうぞ。

【望月委員】

今日お話をお伺いしたお二人とも、子どものものづくりに関わられているわけですが、私も清水の「ま・あ・る」の起ち上げに関わってきました、現在も運営相談に乗っています。その中で、子ども達のものづくり指導に対し、基本の「き」をどこに置けばいいのか、どこから出発すべきなのかという点で、現在でも整理がついていません。

現在の「ま・あ・る」あるいは学校のものづくり教室や授業では、最初からキット化されているようなものを組み立てるだけの簡単な作業が多く、手でものをつくるということは本来、ケガをしたり、汚れたり、場合によっては怖いことになるということを学ぶ機会はなく、そういった原点をどのように捉えるべきかと思っています。片づけも面倒で、時間内になかなかキレイな形の完成にならないような作業は最初から避けてしまっている現状があります。必ず時間内に想像どおりの完成に近づく、こういった過程も必要かと思いますが、何を作るにしても、そういった切る作業、接合作業の原理は変わらないと思います。そういった現状から木を切る、釘を打つ等のものづくりの基本的な作業を学ぶプログラムが必要ではないかと考えておりますが、皆さんの活動ではこういった取り組みについてどのようにお考えですか。

【二渡会長】

基本に立ち返ったご意見かと思いますが、山内理事長、お願いします。

【日立清水理科クラブ：山内理事長】

先生のおっしゃることはよくわかります。ものづくりの基本の「き」というお話でしたが、やはり産業の元というものは鋳物だと思います。ゼロからすべて作りますから、そこには伝統産業も何も区別はなく、全ての技術の元になると思っています。

課題についてはやはり作りやすく、できあがり動くものになると子ども達は楽しみやすいものですから、どうしても電気関係の課題が多くなってしまいます。ですが、今後この課題の中では、学校ではやらないような化学実験を取り入れるとともに、楽しみながら取り組めるようなプログラムを考えております。こういった課題についてもやはり、理科が好きな子は、熱心にチャレンジを試みってくれるので、良い傾向だと思います。

【二渡会長】

教育というのは、基本を掘り下げていくと、キリもなく深い所で非常にシンプルな基本課題になってしまいますので、どこから始めるのかというのはケースバイケースになるかと思われれます。山内さんもここ数年、苦勞してカリキュラムを作っておられるわけですけど、教わる子どもたちの反応を見ながら、興味を持たせなければならぬため、やはりそういったことからカリキュラムの見直し等を行いながら少しずつ固まってくるのではないのでしょうか。

今日は現実的な話題のため、意見はまだ皆さんあるかと思いますが、残念ながら時間が迫ってまいりました。この辺でご質問、ご意見は打ち切らせていただきます。それでは最後に、事務局から部会関連の報告を、要点についてお願いします。

10 部会関連報告

(事務局：頭師地域産業課副主幹)

それでは、伝統工芸創造部会につきまして簡単に説明させていただきます。10月に部会を開催させていただきました。そのあと二渡会長と事務局の方で各団体を回り、そこで浮かび上がってきた現状と方向性について簡単にお話させていただきます。

問題として挙がってきたのは、部会の中でも何度も論議をされていますが、問屋制度が崩壊したことにより、今後は職人さん自身が営業等をやっていくべきではないだろうか、ものづくりに専念しつつもマーケット感覚を養っていく必要があるのでは、と意見がありました。また、問屋的存在は必要だが、そのシステムに頼りすぎると職人さん自身、マーケット感覚を失ってしまうため、そのシステムの使い方が大事になってくるのでは、といった意見もありました。

続いて、業界を代表する職人さんから挙げられた問題として原材料・道具等の枯渇問題があります。業界問わず、職人さんは全ての行程を自分自身でやっているわけではなく、原材料の準備は生地等を仕入れて進めています。その生地を作る職人さん、または道具を作る職人さんが減ってきていることで原材料の仕入れが困難になってきている、このような枯渇問題が浮かび上がってきました。

他にも、時代とともに日常生活のスタイルの変化等があり、節句の行事スタイルも昔とは変わってきていることで、伝統工芸品についても今までと同じものを作る必要がなくなってきたが、伝統工芸も今後は変えるべきところとそうでないところがあるので、伝統工芸にとって有益となるようなことについて検討していく必要があるという意見がありました。

このように視察と協議を行いまして、現状と問題点、また目指すべき方向について資料にまとめさせていただきました。これを叩き台に、4月に部会を開催させていただき、そこでご意見を伺いながら方向性について詰めていきたいと思っております。

【二渡会長】

望月さんから前回の審議会でも、静岡市の伝統産業が目指す方向は、作家タイプの職人を育てていくのかそうでないのか、それによって今後の市の対応も変わってくるのでは、とご意見をいただきました。それについて、私自身が地元の各団体の代表的な方々に会って色々意見を伺いました。その結果、営業支援マーケティング、販売拡販等について支援をしてくれる組織があった方が良く、作家を目指す仕事をしていこうとする方は、自身が自分でお客

さんを回ってニーズを聞き、それに応えるようにしなければ良いものはできない、というご意見がありました。現状、こういった支援をするシステムが必要ではあるが、そこから先の支援を利用するかしないかについては各人の判断に委ねられるのではないかと考えております。今後もこの問題については、部会を開き意見を伺うことで詰めていきたいと思っております。

【二渡会長】

それでは次の部会の報告をお願いします。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

調査研究部会から、簡単にご報告させていただきます。この審議会が始まる前に1時間ほど部会を開催いたしました。静岡市のポテンシャルが活かされるような特性を民間業者と行政機関が一緒になって事業として創出できることはないか？また、そういったものを海外に輸出できるのかどうかについて、可能性も含め検討をいたしました。今日で結果が出たわけではないのですが、キーワードとして水や食品等、色々意見が出ましてかなり白熱した議論になりました。今後も継続して協議を続けていきたいと思っております。簡単ですが以上です。

【二渡会長】

現在、地方の公共団体が中心になって、何かビジネスをできないかという取り込みが色々行われておまして、例えば北九州市が環境改善事業で、海外へ様々な企業をコーディネートして展開をしております。静岡市もそういったポテンシャルを活かし、静岡市を中心に地元の企業を集め、海外や国内の他の地域に展開することはできないかということテーマに議論をしております。

今日は山内さんと上妻さんをお招きして、長い間熱心に討議いただきましたが、ここで審議会は終わりにしたいと思います。引き続き、事務連絡はありますか。

(事務局：佐藤地域産業課副主幹)

事務局から二つほどご連絡があります。一つ目は、明後日3月20日木曜日、日立アプライアンスへ工場見学がありますが、審議会が閉会しましたら出席される方は一度お集まりください。よろしくをお願いします

二つ目ですが、年度末になりまして、皆様にも事前にお知らせしておりましたが、地域産業課がツインメッセから清水庁舎へ4月1日に移動になります。それに伴い来週から事務所の引越し作業が始まりますので、皆様と連絡が取りにくい状況が想定されます。何かあればご連絡いただきますが、こういった状況をご承知おきください。

11 閉 会

【二渡会長】

それでは以上をもちまして審議会の閉会したいと思います。皆様、長い間ありがとうございました

(事務局：森地域産業課参事)

本日も熱心なご審議をいただきありがとうございました。山内様、上妻様、お忙しい中ご

出席いただき厚く御礼申し上げます。今年度のものづくり審議会ですが、委員の任期更新に伴う新たな構成の中で昨年10月から3回開催してまいりました。皆様には次期ものづくり基本計画の策定案をご検討していただいておりますが、今年の9月末をめどに答申をいただくことになっております。改めまして真摯なご検討をお願い申し上げます。今年度の審議会は本日が最後になりますが、新年度に入りまして5月か6月に第11回目の審議会を検討しております。その際には万障お繰り合わせの上、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

これをもちまして本日の審議会を閉会したいと思います、ありがとうございました。

本会議録は、平成26年3月18日開催の「第10回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会 長 _____

委 員 _____